

▼昭和5年(1930)

「赤い鳥童謡集」(北原白秋編、ロゴス書院昭和5年11月20日刊)の序で、白秋は「赤い鳥投書欄の童謡はその過程において凡そ三期に区分される。その初期は創刊当時より大正十二年上半期まで、本集では〈かたぎの実〉〈鳥の卵〉の二章に互る期間である」とし、この期間に台頭した新人として海野厚一他4人の名前を挙げ、〈かたぎの実〉の章に、「天の川」「青鳩」(共に発表当時推奨作品)の2編を採っている。

▼昭和7年(1932)

この年6月23日刊行の春秋社「世界音楽全集」第24巻「日本童謡曲集」(本居長世編)に「ひなまつり」が収められているが、この作曲者は三宅延齡で、厚の「ひなまつり」には中山晋平作曲のものと2つあることになる。(なお三宅には齋木秀男作詞にかかる同名の曲がある。)

▼昭和11年(1936)

曲水叢書第6編として発刊された「切子燈籠」(東京市麹町区麹町4丁目5の6曲水社、7月15日)に、長頸子の50句が「銀の匙」としてまとめられ、他の物故曲水同人の句鈔といっしょに編まれている。水巴が物故同人を偲んで序、凡例を識るす。「銀の匙」50句は死去の年の「曲水」(10-9)所蔵の水巴編「長頸子の句」44句から4句が削られ、新たに10句が加わっている。

▼昭和13年(1938)

曲水叢書第13編。「曲水」に発表された同人の随筆5編からなる随筆集「葉牡丹の渦」(12月26日曲水社発行)に、「浜町雜記」が採られている。水巴のはしがき。

▼昭和33年(1958)

年初毎日新聞静岡支局松永記者が、ある童謡集で、子どもたちの愛唱歌「背くらべ」「おもちゃのマーチ」の作詞者が静岡市出身の故人であることを知り、菩提寺の法蔵寺(写真)を探しあてる。これが機となり、寺に隣接の西豊田小学校の久保田



校長が学籍簿を調べ故人の母校だったことを知り、たまたまこの年が故人の33回忌に有縁とあって、5月に音楽法要。又3年後を目標に、童謡碑建立が計画された。

2月24日・毎日紙県版。4段抜きで富士登山中の故人の写真入りで、「童謡詩人海野厚をしのぶ 西豊田小で五月の命日 追悼音楽会」と取材記事を掲載。

5月3日・墓前での童謡演奏。

20日・命日にあたり法蔵寺本堂で、住職遠山弘文導師による音楽法要。西豊田小学校児童音楽部員85人によるオルガン、アコーディオン、シロホン合奏と合唱。「雀たずねて」「おもちゃのマーチ」「背くらべ」が歌われた。法要には海野家別家の